

件名： 「平成30年 山口市10大ニュース」について
担当課： 総合政策部広報広聴課 広報担当 （電話：083-934-2753）

■順調な新事業所建設や新たな産業団地の整備（産業立地推進課）

2月5日、王子ゴム化成株式会社と新事業所の建設に関する協定を締結し、その後、株式会社テレマーケティングフォース、日本果実工業株式会社、トゥルージオ株式会社などと新事業や新事業所建設等に関する協定締結が相次ぎました。さらに、小郡都市核へのオフィスの集積等を目的に創設した「山口市小郡都市核オフィス等立地促進補助金」の適用第1号として、三陽工業株式会社とオフィス設置に関する協定を締結しました。10社と協定を締結し、224人の雇用を創出しました。こうした好調な企業の進出により、本市の産業団地における分譲可能な区画が、残り1区画となっていることから、2022年度の分譲開始を目指し、鑄銭司地域において、本市の新たな産業団地である「鑄銭司第二団地」の整備に着手しました。

■第二次山口市総合計画を策定（企画経営課）

3月15日、「第二次山口市総合計画」を策定し、平成30年度からの次なる10年の挑戦が始まりました。この新たな総合計画では、将来都市像を「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口 ～これが私のふるさとだ～」とし、その実現に向けて、「山口市全体の発展」を、次なる10年の本市のまちづくりにおける共通理念として、都市部も農山村も共に発展するまちづくりを進めていくこととしております。こうした中で、平成30年を「オール山口の発展元年」と位置づけ、「広域県央中核都市づくり」と「個性と安心の21地域づくり」をはじめとする8つの重点プロジェクトを意欲的に展開しました。

■山口市新本庁舎整備基本方針を決定（本庁舎整備推進室）

3月20日、これまでの本市の新本庁舎整備に関する検討内容を整理した、「山口市新本庁舎整備基本方針」を決定しました。この基本方針において、新本庁舎は現本庁舎及び中央駐車場の所在地で建替え整備をすることとし、4月からは、基本計画の策定に向け、必要な機能、建設規模、事業スケジュール等について検討を進めています。

■新山口駅北口駅前広場の全面供用を開始（都市整備課）

3月22日、新山口駅北口駅前広場の全面供用を開始しました。

新たな北口駅前広場は、従来の駅前広場より2倍近く拡張し、路線バスの乗降場を集約するとともに、身障者用の乗降スペースや駐車場、多目的トイレを設置するなど、利便性が向上しました。さらに、観光交流センター、エフエム山口のサテライトスタジオ、地元の食材を活用したカフェなども備え、魅力溢れる駅空間へと生まれ変わりました。



■市内観測史上最高の38.7℃を記録（環境政策課）

7月19日、全国では4位、本市の観測史上では最高気温となる38.7℃を記録しました。また、最高気温が35℃以上の記録的な猛暑日が続いた、暑い夏となりました。さらに、12月に本市の観測史上では最高気温となる23.3℃を記録しました。改めて地球温暖化の影響を実感させられる状況でした。

■山口ゆめ花博の開催（都市整備課）

9月14日から11月4日まで、「第35回全国都市緑化やまぐちフェア 山口ゆめ花博」を、県と都市緑化機構とともに開催しました。52日間にわたる会期中、華やかに咲き誇る1千万の山口県の花々、日本一に挑戦した遊具の数々、本格的なナイトプログラムなど、さまざまな企画を来場者に体感していただきました。本市は、湯田温泉の温泉水を直送した足湯施設「湯田温泉 別湯」や、温泉水を利用した「蒸しふく料理」で、湯田温泉の「湯」と「食」を一体的に発信し、花博を盛り上げました。来場者数は目標の50万人を大幅に上回る、約137万人となり、多くの方に本市の魅力を感じていただきました。



■亀山公園山頂広場リニューアルオープン（都市整備課）

9月22日、明治33年に整備された亀山公園山頂広場について、明治維新150年を機に、利便性や快適性の向上のため、平成28年度から進めてきた整備が完了し、リニューアルオープンしました。

整備にあたっては、ワークショップ等を通じて、市民の皆様からいただいたご意見やご提案を反映し、山口都市核を一望できる眺望を確保したほか、イベントなどで一体的に利用できる芝生広場、バリアフリー対応のトイレ、車いすをご利用の方などに配慮したスロープを設けました。



■十朋亭維新館開館（文化交流課）

9月29日、山口の幕末・明治維新期を紹介する施設「十朋亭維新館」が開館しました。本施設は、萬代家から御寄贈いただいた市指定史跡十朋亭や杉私塾、萬代家主屋などの土地、建物および萬代家に代々伝わる歴史資料を基に、本市が幕末・明治維新を学べる場として、また、大内文化特定地域の新たな回遊スポットとして整備したものです。萬代家伝来の貴重な歴史資料の展示のほか、プロジェクションマッピングや、スマートフォン用のアプリケーション、県指定文化財「手鑑萬代帖」のデジタル化など、多様なコンテンツにより、本市と幕末・明治維新のつながりを体感できるようになりました。



■明治維新150年の記念事業を通じて、本市の魅力を市内外に発信（企画経営課）

明治維新150年の節目の年、地域、民間、行政による記念事業の取り組みがさらに充実、展開しました。地域では、大村益次郎没後150年式典・講演会が開催されたのをはじめ、史跡を巡る歴史ウォークや講座、冠イベントなどが数多く実施されました。また、山口商工会議所を主体とした実行委員会により、明治維新ゆかりのお宝を公開する山口お宝展、徳川・島津・毛利家からの登壇があった記念シンポジウムのほか、市・県施設における企画展示などを通じて、本市の魅力を市内外に広く発信し、節目の年の機運が高まりました。

さまざまな取り組みにより、明治維新の策源地であった本市において活躍した志士たちに思いを馳せながら、ふるさとの歴史を学び、本市への誇りと愛着を感じる絶好の機会にもなりました。

■第20回日本・スペイン・シンポジウムを開催（国際交流課）

11月22日、明治維新150年を迎えるとともに、日本とスペインの外交関係樹立150周年でもある記念すべき節目の年に、両国の交流の原点として大きな足跡を残したフランシスコ・サビエルとゆかりの深い本市とともにスペインのホストタウンである山口県・宇部市が連携し、第20回日本・スペイン・シンポジウムを開催しま



した。両国の政治家、財界人、学術・芸術関係者、政府関係者など、約120人が参加し、3つのテーマに沿って意見を交わし、両国の相互理解や協力関係を深めました。今後も、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、ホストタウンとしての取り組みを一層加速させていきます。